

むかし むかしのそのむかし

ヤマトの国(いまの ならけん)に、ひとりのおうじさまがいました。

そのおうじは、王さまのめいれいで きゅうしゅうにいて たたかいました。

大かつやくをしたので、王さまは

「おまえにふしぎな力のある かたな(つるぎ)とまほうのふくろをあずける。
こんどは東のほうへいき、たたかいなさい。」とめいれいしました。

おうじは 東にむかって たびをしました。

ところが とちゅうで ふじさんのちかくについたころ

てきにだまされて ひろい野の草に火をつけられてしまいました。

草は かれくさだったので あっというまにもえあがり

おうじは火にとりかこまれてしまいました。

おうじは まほうの力をつかおうとおもいました。

まほうのふくろをあけ 手にもったつるぎをふりまわすと

どんどん火がきえていきます。

たすかったおうじは さらにたびをつづけました。

こんどは 目のまえに海がひろがり

おうじがまえにすすむのをじゃましています。

おうじは「ふん こんな小さな海 わたしひとりなら とびこえられるのに」
とつぶやきました。

おうじは ひとりではなく おひめさまをつれていたので。

おうじと ひめは ちいさなふねにのり 海をわたりはじめました。

そのとたん 空がくもってきて かぜがふき あっというまにあらしになってし
まったのです。

おうじの「ふん」ということばに 海のかみさまが おこってしまったのです。

ふねがゆれ とうじが海におちそうになったときです。

おひめさまが たちあがりました。

「わたしが 海にとびこめば 海がしずかになってくれるはずです。」と

さけび 海にとびこんでしまいました。

そのとたん あらしは おさまり

おうじは ぶじに海をわたることができたのです。

でも おひめさまは 海にきえたまま もうもどってきませんでした。

おうじは なきながら 空にむかって

「ああ たちばなひめ わが つまよ。わが つまよ。ゆるしておくれ…」

さけびました。